

酒田出張所ニュース

平成29年2月24日発行

今年度の工事技術検討会が開催される



▲発表後の質疑応答の様子



▲表彰された方々の記念写真

酒田河川国道事務所の工事受注者を対象とした「工事技術検討会」が2月8日（水）に酒田市公益研修センター大ホール（東北公益文科大学キャンパス内）にて開催され、工事の事故防止や品質確保、施工技術向上に関する日常の取り組みが発表されました。

今年度は、関係者を含め235名が参加し、事前に応募があった47題の中から23題が選ばれ発表されました。全て庄内地方で行われた工事とあって、県建設業協会酒田支部・鶴岡支部の方々を中心に熱心に耳を傾けていました。また、各発表後には、会場の聴講者や審査員から質問や意見が数多く出され、活発な意見交換も行われました。今年の特徴は、ICT技術（情報通信技術）に関する発表が多かったことでした。

審査の結果、最優秀賞2題、優秀賞7題が選ばれ、当事務所長から表彰を受けられました。

この検討会開催により、今年度も全ての工事現場の安全意識高揚と技術力向上を目指すとともに、発注者と受注者の情報共有を図ることができました。

最上川に対空標示を整備しました

地震・出水等の災害時において、被災した河川管理施設の速やかな特定や氾濫状況の把握等が重要であることから、防災ヘリコプターやドローン（遠隔操作無人航空機）などを用いて上空から河川の被災状況の把握が行われています。しかし、上空から見た河川は似た地形などによって被災の位置や施設等を迅速に特定することが困難なのが現状です。

そこで、河川堤防への距離標等の対空標示（ヘリサイン）を行うことで災害時に上空から河川の被災状況を把握した位置の特定が迅速、容易に確認できるようになり、すでにこれまで全国いくつかの河川で整備されてきました。

今回、酒田出張所管内の最上川でも堤防天端の舗装に河川名、距離標、橋梁名の対空標示を整備し、災害時のみならず平常時においても最上川を上空から確認した場合に位置を特定できるようになりました。

暖かくなって、最上川の堤防を散策する際にでも地上からは是非探してみてください。



河川名「もがみ川」を標示しました。1文字当たり3mの大きさです。



河口からの距離を示す距離標。「L14」は、左岸14kmを指します。



目標物となる橋梁名も標示。写真は左岸に設けられた「庄内大橋」の標示。

編集後記

年が明けてから、早いもので2ヶ月が経ちました。2017年も健康に過ごすために、季節の変わり目などに体調崩さぬよう、日頃から気を引き締めていきましょう！



国土交通省 東北地方整備局 酒田河川国道事務所 酒田出張所
山形県酒田市山居町2丁目12-14
TEL 0234-22-3604
FAX 0234-22-4314
URL <http://www.thr.mlit.go.jp/sakata>



←携帯電話
「川の防災情報」はここから
アクセスできます。
<http://i.river.go.jp/>